

平成27年度花巻市健康づくり推進協議会会議録

1 開催日時

平成27年8月20日（木）午後1時30分～午後2時45分

2 開催場所

花巻市南万丁目970番地5

花巻保健センター1階 多目的ホール

3 出席者

(1) 委員 20名

大沼委員、杉原委員、藤原(吉)委員、中沢委員、八重樫、佐藤(正)委員、鎌田委員、板垣委員、木村委員、小田島委員、伊藤(成)委員、坂本委員、佐々木委員、菅原委員、小原委員、佐藤(勝)委員、小瀬川委員、藤原(美)折居委員、伊藤(今)委員

(2) 市・事務局 7名

佐々木健康福祉部長、伊藤健康づくり課長、植田課長補佐、盛田課長補佐、高橋係長、及川係長、吉川係長

4 会議の概要

植田健康づくり課長補佐の司会進行

委嘱状交付

会議の冒頭、佐々木健康福祉部長より各委員に委嘱状を交付した

委員及び職員紹介

植田課長補佐が委員及び職員の紹介を行った。

(1) 開 会

植田課長補佐が、協議会の開会を行った。

(2) 挨拶

佐々木健康福祉部長が挨拶を行った。

本来であれば、上田市長が出席し、委員皆様に委嘱状の交付をし、ご挨拶申し上げるべきところですが、あいにく別用務と重なり、出席できかねましたので、健康福祉部長の佐々木ですが、代わってご挨拶申し上げます。

本日は公私ともにお忙しいところ、健康づくり推進協議会に御出席いただき感謝申し上げます。

そして、また、日頃から当市の健康づくり事業に対しまして、様々な面で、ご支援、ご協力を賜っておりますことにも感謝申し上げますとともに、今後2年間、健康づくりの推進について、協議会の委員として、なお一層のご支援を賜わりたい

く、お願い申し上げます。

本市の健康づくりの推進については、平成 24 年度から 33 年度までの、「健康はなまき 21 プラン」の計画に基づいて各種事業を展開しているところであり、特にも、市民の健康課題である脳卒中等の生活習慣病を予防するため、健康アップ講座をはじめとして様々な場面で、高血圧予防のための減塩推進はもとより、自動血圧計の貸し出しを通じて、市民の血圧管理を普及推進しているところ。

また、重症化予防対策として、健康診断の結果で危険度が大きいと判定された方に対して、訪問により医療機関への早期受診を奨めているところでもある。本年度からの取り組みといたしましては、医師会の先生方のご指導もいただきながら、国保の特定健康診査における健診項目に貧血・尿酸・腎機能検査を追加し、生活習慣病の予防対策の充実を図ったところでありますし、若い方々にもご自分の健康に関心を持っていただきたいという願いから、コンビニ等へのチラシ配置と、企業等における健康講座を始めたところ。

さらに、本年度の新規事業として、医師会の先生方のご指導・ご協力をいただき、県内他市に先駆けて、20 歳から 40 歳の若い方々を対象に、総合的な胃がん対策として、ピロリ菌検診を実施することとしている。

本日の会議は、保健事業に係る平成 26 年度の事業報告と平成 27 年の事業計画について説明するほか、健康はなまき 21 プランの中間評価について御説明申し上げますこととしている。市が行う各種の健康づくり事業の実施に役立てていくため、委員皆様には、忌憚のないご意見をいただくよう、お願い申し上げ、開会にあたってのご挨拶とさせていただきます。

(3) 花巻市健康づくり推進協議会 会長及び副会長選任

植田課長補佐が、会長及び副会長の選任について委員に諮ったところ、小田島克久委員より事務局一任との発言があり、事務局より会長に大沼一夫委員、副会長に杉原典子委員を提案し、出席委員より承認を得た。

その後選任された、会長、副会長から就任のご挨拶を頂いた。

(4) 協 議

大沼会長を議長として進行

- (1) 平成 26 年度保健事業実施状況について
- (2) 平成 27 年度保健事業計画について

盛田課長補佐が一括して説明を行った。

質疑・意見は次のとおり

折居 健委員

2 点質問したい

- ・保健事業実施状況の各事業において、成果指標があるが、目標値の設定は何に基づいているのか。
- ・健康づくり推進事業において成果指標のうち献血本数については、目標を下回っているが、事業の成果としては安定した血液供給が図られたとなっている、この点はどうか。

盛田課長補佐

- ・成果指標の目標値については、基本的に21プランを利用しており、目標に大きな隔たりがある際は、今回のような中間見直し等の際に見直し等を行っている。
- ・献血事業の成果指標については、26年度の実績値は前年度より下回っているが、県内の目標のうち、当市の割り当て分は達成していることから、血液供給が図られたとしたところである。

伊藤今子委員

4点ほど質問したい。

- ・がん検診に関して、26年度実施した実績値をみると、受診率の目標は概ね5割ぐらいを目途にしているようだが、実績としては30%台という状況で、受診率が低いのではないか。

あと、特定健康診断について、テレビである市では受診率を上げるために、例えば商品券を受診した人に配ったというのを見たことがある。花巻市として受診率をアップさせるような方法を何か考えるということはないのか。

そして、受診率を上げることによって、病気自体が重くならない前に受診することによって医療費もその分抑えられるのではないかと私は考えるが、どうか。

- ・がん検診について、今年から胃がん検診についてはピロリ菌の検査を導入して、後々に毎年の検査ではなくて、数年に一回という話が出たが、女性の場合、数年前から婦人科検診について毎年だったものが、2年に1回になっていて、受ける立場としては、やはり毎年受けた方がいろんな病気が発見されるので、できれば2年に1回ではなくて毎年受けることができると良いと思う。

また、後に胃がん検診などもそういうふうに数年に1回ということになってしまった場合、実際に受けた人は自分でどこかの機関で毎年検査を受けなくてはならないようになってしまうと思う。そういうのではなくて、受診率を上げて、なるべく早期にがんを発見して、後々の医療費がかからないような方法を取った方がいいのではないかと考えるが、その辺はどうお考えなのか伺う。

- ・自殺予防に関して、自殺予防対策ということで、パソコンなどで心の体温計というものを使ってかなり皆さん心をいろいろ診断されているということが、岩手県の場合、実は全国でもワースト1だったと思う。これを使うことによって自殺率のアップを止めることが出来たのかどうか、予防することが出来たのかどうか、その辺も伺いたい。

また、予防するためにどのような対策を取ったのか伺いたい。

- ・脳卒中に関して、保健センターの前に横断幕として全国ワースト1というものがある、岩手県が非常に率の高い県だということを私が知ったのは、去年の健康診断で保健センターに来た時でした。私のように岩手県がワースト1だということを知らない人が非常に多いのではないかと感じる。

また、8月1日に岩手県の脳卒中予防の県民講座でいろいろ話を聞いて、それによって勉強することが出来たが、花巻市としてもやはり、皆さんに、今非常に危険な状態だということを知ってもらって、それを脱出できるような取り組みをもっとすべきではないか

と私は考えるが、今のような状態ではなく、もう少し、踏み込んだ形で何か取り組むことができないのかどうか、その辺を考えていただきたいと思う。

盛田課長補佐

- ・当市の健診は、市内各地区の公民館等に出向いての軒先健診を行っており、県内でも 1、2 位の受診率であるが、国が示す目標値には達していない。受診率を向上させる取り組みについては、市広報への特集記事をはじめ、市内には 382 人の保健推進委員がいるが、健診の受付をお手伝いいただいております、地域住民に対しての受診の声かけ等を行っていただいているところである。
- ・がん検診の受診率の目標数値については、国が示しているものであり、当市の受診率は下回っている、また、女性のがん検診については、国の指針に基づいて 2 年に 1 回となっております、当市においても指針どおり行っているところである。
- ・自殺予防対策としては、サイトの立ち上げは行ったところであり、アクセスした方が、ページ内にある関係機関に繋がることを期待しているものである。また、市としても、自殺対策会議を開催しているところである。
- ・脳卒中の取り組みについては、血圧計の貸出や、健康づくりの分野だけではなく、栄養士や食改協のご協力を得ながら、減塩等の取り組みを行っているところである。

伊藤課長

補足させていただく。

一つ目のご質問で、がん検診の受診率について、国の目標値であるみたいな答弁をしたが、国が設定しているがん対策推進基本計画、現在第 2 期計画であるが、国で定めた受診率は 50% となっている。市町村においてもこの目標に下回ることなく定めているところである。

花巻市において一番いい受診率で肺がんであるが、40 数%であり、その他のものが 40% を若干下回る状況。その中であって胃がんだけが 20% を下回るという特殊な状態が続いている。受診率は一気に回復は出来ない。

花巻市におけるこれらの検診受診率の傾向は、国や県の受診率よりは高くなっているところである。しかし、高いところにあぐらをかくわけにはいかないもので、一番弱い胃がんに対してどういった事が可能か、今年度はピロリ菌検診ということで、国が勧めるがん検診の考え方、いわゆる死亡者を減らすのに効果がある検診項目という位置づけになっており、まずは受診率が低くても死亡率を減らせる部分に着目して、ピロリ菌みたいなどころに手を染めていったというのがこの受診率の低さを見た上での一連の流れとなったところである。

もうひとつ、答弁が漏れた点の、検診をうけた際に商品券等で医療費の抑制に繋げては？ とのことのご質問について、国を含めて多様な議論があるところで、伊藤委員のご指摘のとおり医療費の抑制は期待できるものであるが、一方では、医療費を使わないことに拍車をかけると、病院に行かないなどの、悪い方での医療我慢ということも生じることもあり、これ

らの事については、国や県でも考えを進めているところであり、市としては、国や県の動向を注視していきたいと考えているところである。

婦人科検診について、先ほどがん検診で述べたとおり、国で定めるがん検診は、死亡のリスクを減らす部分に効果がある検診項目を、こういった間隔で、身体的負担・経済的負担をかけないでやれるのか、トータルの判断のもと行っているものであり、婦人科検診については、2年に1回の検診で十分に早期発見が可能だというふうな位置づけになっているところである。

先頃の新聞にも掲載されていたが、伊藤委員がおっしゃったとおり岩手県は、結構な数でワースト記録があるわけで、脳卒中、自殺、それからワーストかどうかかわからないが、食塩の摂取量が男女とも全国ナンバーワンで、塩の摂取と脳卒中の因果関係は、血圧を通じて一致している。

脳卒中予防について、まだまだ知らない人がいるのではとの指摘でしたが、今、10本の事業を説明しましたが、トータルで事業を展開する中で、市民が抱える健康課題の中で、脳卒中予防対策をメインターゲットとしてやっていくとご理解いただきたい。

なお、頂きましたご意見については、今後の事業の中で考えてまいりたい。

伊藤今子委員

がん検診について受診率が低いというのがわかったのですが、市として全国の目標値を超えてほしいと思う。そのためにこのような協議会を開いていると思う。よって、他の県がどうだとか全国という話ではなくて、市として色々な方策を練って、色々な形で取り組んで、皆で健康になっていけば良いと思う。

花巻市の場合は、温泉というものがあり、温泉も健康に一役買っている部分もあるので、温泉を活用しながらみんなが健康になっていくということも考えて行くことも、良いのではないかと思う。

大沼議長

ご意見ということで、受け取っていきます。

坂本秀樹委員

教えて頂きたいのですが、家庭血圧測定のための自動血圧計の貸出について、資料には大迫地区以外とありますが、もう少し詳しく教えて欲しい。

及川係長

家庭血圧測定については、10年くらい前は、保健師が地区に健康相談に出向いた際に、住民の血圧を測ってあげるというスタイルがほとんどであったが、これからの時代は、ご自分で血圧を測って自己管理という時代になってきている。

東北大学の研究事業で、大迫地区においていろんな健康調査をやっているところだが、大迫だけではなく他の地域にも波及していきたいということで、今年度は東北大学から沢

山の血圧計を貸していただき、その血圧計を各団体の方に貸し出しを行うものである。

例えば、健康教室や事業等において、自分で測って自己管理をする方法を PR しているところである。また、貸出については、現在 10 台となっている。

坂本秀樹委員

家庭での血圧測定は大事だと思う。私も、お店で血圧計の話をするが、持っていない人が多い。貸し出し数が、今 10 台とのことだが、10 台ではちょっと少ないのではないかと、個々にやってもらうには、やはり個々に買ってもらって、そのためにも私たちが声かけはしますけれども、血圧計を各家庭に持ってもらえるように思っている。

あと、血圧手帳について、市の方から頂けるものなのか。

及川係長

手帳に関しては、欲しい方が健診等にきた時に差し上げている。あとは、保健センターで集まりがあるときには、自己管理ということで、自分で血圧測定して頂き、血圧測定のやり方、こういう血圧計がいいですよ、と紹介などをさせていただいている。

菅原哲子委員

保健大学運営について、花巻市医師会に委託して実施とのことだが、これはどのような対応で、年に何回かを聞きたい。

また、献血推進協議会というものがあるが、献血推進協議会とはどのような方達で組織されているものなのか。

次に、歯科衛生教育のところで、8020 達成者は確か 80 歳の方で 20 本以上の歯がある方ですが、これに対する条件？ 自分の歯が 20 本あって、1 本 2 本でも虫歯があっては駄目なのか、条件を教えてください。

また、歯医者さんに行っていて、そこの歯医者さんの推薦がないと駄目だという話を聞いたことがあるが、うちの母も実は 20 本以上あるので聞いてみたところである。

最後に、がんのところですが、無料クーポン券を配布したということで、受診率がアップしたということがありました。無料クーポンについて説明して欲しい。

伊藤課長

保健大学については、年 8 回、延べ 238 人の参加があった。共通テーマは生活習慣病の基礎知識とその予防を掲げており、講座によって中身が異なる。例えば 1 回目は、整形外科とロコモシンドロームについて、それから 2 回目以降では、足は健康ですか、生活習慣病と脳卒中、あとはお口ですとか、循環器、いわゆる生活習慣病についての基礎テーマとして、238 名の参加をいただいている。

献血推進協議会の関係では、献血推進協議会は日本赤十字岩手県支部花巻地区委員長の瀬川様に会長になっていただいております。協議会には 20 数名の委員が、ほとんどが企業様の社長さんですとか事業所の所長さんですが、委員の皆様は様々な面において、ご協力い

ただいているところである。

8020の達成の部分では、これは確かに歯科医師会の先生方からの推薦がありまして、高齢化と合わせて実は年々対象者が増大しているところである。

最後の、がんのクーポンですが、無料クーポンを行なっているのは、大腸と乳がん・子宮がんで、大腸も乳がんも子宮がんもいわゆる検診対象初年度の方、大腸と乳は40歳、それから子宮に関しては20歳で検診対象の初年度の方について、クーポンターゲットとして行なっており、ここ数年は、実は婦人科のほうのがん検診については、さらに5歳刻みで、年齢層を上積みして過去5年間無料クーポン事業を一回りしている経緯がある。基本的には初年度の対象者に無料クーポンを行なっているところである。

大沼議長

保健大学は医師会だけじゃなくて、歯科医師会と薬剤師会の協力も得て行っている。

(3) 「健康はなまき21プラン」の中間評価について

盛田課長補佐より説明

質疑・意見は無く(4)の協議を終了し、議長が退席した。

(5) その他

植田課長補佐が、委員に対して「その他」について諮った。

伊藤成子委員及び伊藤今子委員から、次の発言があった。

菅原哲子委員

支所の保健センターが今空いている状態になっているが、保健センターは健康づくりのいろんな事業を増やして、さまざまな事業が行なわれて、それから予防に関する対策とかいろんなことがやっているが、私の知り合いで40代半ばの方たちが乳がんとか子宮がんになられてる方がいて、ちょうど私たちの母親世代の人たちがその年代の時に、乳がんや子宮がんを経験した方が、がんになって、手術を受けてから1カ月後の定期検診までの間に自分はどのようにすごしたらいいのかとか、いろんな心の悩みを持っている方がいたと聞いている。

そういった方が病院に行くと、看護師さんもお医者さんも患者はほかに沢山いるので、なかなか話を聞いて欲しいけど聞いてくれないという方たちも多いので、もしできれば保健センターを利用しながら、ボランティアでもお話を聞くようなサロンというか団体があればいいなと。2、3日前に行った家でお話をしたばかりで、こんな会があるのだけれども、そんな話をして来ようかなということ、話をさせていただいたところである。

その方から聞いたならば、病院では中央病院と岩手医大には、がんサロンというのがあって、お医者さんや看護師さん以外に保健師さんたちが常時していて、そういった悩みを持っている方のお話を聞くところがあるとのことであった。

花巻市でも保健センターが空いているので、そこを活用しながら、対応する人たちがいたら、ボランティアがいたらいいなと思っている。希望だけ、私の夢というかお話させていただいた。

伊藤今子委員

私も、それは素晴らしい事と思う。

菅原哲子委員

もうひとつ、すいません。食改協の花巻の減塩活動について、伝達講習というのを年に8回しており、各地区合わせて208回であるが、その中で推進員が896人担当しており、一般の受講者が4,275名となっている。参加する都度に、家庭の味噌汁を持ってきていただいて、味噌汁の塩分量を測って指導させていただいている。減塩君というものがあって、とても簡単に測定できて、2,700円ぐらいで買えて、冷たくても温かくても使えるので、各地区に推進員がおり、何かのおりに、「おら達も減塩のお料理講習をしてみたい」と、推進員に声をかけていただければ、協力させていただきたいと思う。

伊藤今子委員

それに関してなんですけれど、曜日が多分普通の日だと思うのですよ。その講習会を開いた日が普通の日だと思うので、今の若いお母様方は働いている方が多いと思うので、そういう人たちもできれば来られるような形で、窓口とか何かのものを考えていただければという気がします。

あと、食改協の推進員の方々も年齢的にも高くなってきているのではないかと私は思うので、だんだんに世代交代もあると思うので、次の世代の人たちに引き継ぐような形で、若い人たちも飛び込めるような体系作りを考えて頂きたいと思う。

菅原哲子委員

食改協は、「出来る人は出来るときに出来ること」をキャッチフレーズにしている、60代以降の定年退職の方が結構元気で、いろんな情報、経験豊富な方たちです。

今後は、若い方たちにも繋げていって、一緒にやっていきたいと思っている。

これに対して、伊藤課長が、次のとおり回答した。

一つだけ、先ほど、ご婦人のがんについて、がんサロン、保健センターの空きスペースという話ですが、確かに見かけは空いたスペースですが、実は、平成18年に合併してから、職員数が縮んだ訳で、その中で花巻地域を広く保健活動する観点もあり、一方で保健センターに3人の職員だけで居るということは、いわゆる防犯上もリスクを抱えているものである。

このため、総合支所の機能強化も絡めて、支所の中に保健師も常駐する形になったもので、結果として保健センターからは執務上抜けたが、今も同じように地域の保健師の活動の場として利用しているところである。

空きスペースの概念ではなくて、がんサロンについて感じたのですが、北上市では緩和ケアが相当進んでいるようでして、こういった部分では、当市では弱かったと反省するものだが、お話のあったがんサロンのようなもの、緩和ケアになるのか、そういった部分をお聞きする場というものは、保健センターうんぬんではなくても、必要だろうと感じる所であり、これからの市の政策課題としてとらえ、考えさせて頂く。

それから、食改協につきましては、今後ともご協力をお願いしたい。

(6) 閉会

植田課長補佐が、委員に対して審議頂いたことを謝し、閉会を行った。